

1. 授業評価アンケート

基礎データ

【授業の知的価値について】

本専攻が提供する授業の知的価値について高い満足度（5 及び 4 評価の合計）を示した学生はそれぞれの項目で 80% 台半ばから 90% 近くに達しており、「知的好奇心をかき立てるものであった（88%）」「期待した知識が授業で得られた（89%）」「ビジネスの実践に役立つと思われる知識が得られた（85%）」となった。個別の科目をみても、大きな問題（複数の学生により、1 及び 2 の合計が 20% 以上であるケース）を有する授業はない。

【担当教員について】

本専攻の担当教員について高い満足度（5 及び 4 評価の合計）を示した学生は、それぞれの項目で 85% から 95% に上っており、「熱意（92%）」「学習の目標の明示（87%）」「説明の明快性（85%）」「質問への的確な回答（89%）」「教員知識（95%）」となった。個別の科目をみると、「学習目標の明示」について、複数の学生により、1 及び 2 の合計が 20% 以上となった科目が 1 科目存在する。

【講義技術について】

本専攻の担当教員の講義技術について高い満足度（5 及び 4 評価の合計）を示した学生は、それぞれの項目で 80% 台から 90% に達し、「授業準備の周到さ（90%）」「教科書、参考書、配布資料などの有用性（87%）」「板書、OHP、スライド、ビデオなどの使い方（82%）」について高い満足度を示していることがわかる。また、学生が授業中にディスカッションに参加することを奨励されたかどうかについては 86% が Yes と答えており、ビジネス・スクールらしい双方向型授業が行われていることを示している。また、86% の学生が「授業は全体としてよくまとまっていた」として、総合的に高い満足度を示している。但し、個別の科目をみると、複数の学生により、1 及び 2 の合計が 20% 以上となった科目が複数存在した（「授業準備の周到さ」1 科目、「資料の有用性」2 科目、「板書、OHP などの使い方」2 科目、「ディスカッションの奨励」2 科目、「全体のまとめ」2 科目）。尚、「ディスカッションの奨励」項目については、必ずしも授業満足度を測るものではないため、当該科目がディスカッションに向く科目かどうかによって満足度は判断される必要があることに留意すべきである。

【全体的評価・満足度】

本専攻の教育に関する総合的満足度について高い満足度を示した学生は、それぞれの項目で 90% 近くに達し、「全体としてこの授業は極めて有益であった (88%)」「私はこの授業を他の学生にも勧めたい (87%)」など、総括的満足度が高いレベルにあることがわかる。また、学生の学習意欲については、「この授業に意欲的に取り組んだ」とするもの (5 及び 4 評価の合計) が 83% に達している。但し、個別の科目をみると、複数の学生により、1 及び 2 の合計が 20% 以上となった科目が 1 科目存在した (「この授業を他の学生にも勧めたい」)。

【科目の特徴】

科目の難しさについては「ちょうど良い (3 ランク)」と「難しい (4 ランク)」程度が適当と考えられるが、全体として 3~4 ランクをあげた学生の合計は 90% であり、全体として適切な水準であると考えられる。但し、科目の一部に「難しい」と「非常に困難」と答えた学生が 70% を超える授業が存在する。

勉学の負荷については「ちょうどよい (3 ランク)」と「やや重い (4 ランク)」程度が適当と考えられるが、全体として 3~4 ランクをあげた学生の合計は 86% であり、適切な水準と考えられる。

授業のペースについては、「ちょうど良い (3 ランク)」が妥当なレベルであり 77% であるが、「やや早い」は 15% で、適度な緊張感が保たれているものと考えられる。

教員の親近性については、「とても親近感がもてる (5 ランク) 及び「親近感がもてる (4 ランク)」合計で 75% であり、大半の教員が適切な教育上の距離を維持しているものと考えられる。

【授業内容の重複】

本専攻の授業は数多く開講されているため、科目内容の重複を調査しているが、問題は見られない。隣接科目における内容の重複はあるものの、異なる角度や異なるレベルでの教育であるため、学生の反応も「理解が深まる」「復習が出来た」「相互補完できた」と肯定的である。

【自由記述欄】

自由記述について、一般論としてコメントすることは大変難しい上に、表面的な評論はかえって状況を mislead する可能性すらあると考えられる。アンケートは無記名であるため「当人の学識レベル」「心理状態」「期待の程度・内容」などがつかめないことに加え、各学生が極めて短い言葉で記述しているため、そこからニュアンスなどを掴み取ることが困難であるからである。例えば、「要改善」の項目において、「ディスカッション

の時間が少ない」という記述に関する背景については、(a)ディスカッションを行うべき授業なのにディスカッションに割く時間が少ない、(b)ディスカッションの時間を最大限とっているが、面白い授業なのでもっとディスカッションをしたい、(c)ディスカッションが盛り上がりがないうちに終わってしまう・・・など様々なケースが考えられる。これらのニュアンスは、究極的に各科目の教員が自由記述を読んで判断すべきと考えられ、第三者が一般的評論を加えることには限界があると思われる。自由記述そのものの価値は認められるものの、これは当該科目の特徴、教員のくせ、授業内容などを熟知した者でなければ学生の真意を十分に量ることは困難である。一方、中にはあまり誤解を生じさせることがない記述もあり、以下ではこの点のみコメントを行う。

本専攻の教育として学生が良いと感じている点で最も多い意見は「実践的である」「教員の実務経験に基づくこと」である。更に、「説明の仕方が具体的」「具体例が豊富で興味深い」などが続く。これらは、他にも多くの学生があげる「ケースが有益」「専門性が高い」などの点とともに、本専攻の実践的教育が高く評価されたものと考えられる。また、「充実した価値ある講義」であることをあげた学生も多い。一方、学生が不満に感じる点でもっと多くの学生があげた点が「講義時間の管理」である。この点は、教員が熱心な余り、つい時間超過してしまうということが多い様であるが、個別の授業についての詳細な点検が必要であろう。その他、テキストが「誤植だらけ」「事前課題やテキストの通知が遅い」などテクニカルな不満が提示されており、該当する教員は改善努力が必要と思われる。

集計結果の概観

【評価の総合的結果】

データ上も自由記述コメント上も、本専攻の前期授業は総合的に極めて高い満足度を得ている。学生は、それぞれの授業について肯定的・否定的両面から様々なコメントを寄せているので、教員は各コメントを読み、授業改善に活かしていくことが重要である。

【組織的に緊急に改善が必要な点】

本アンケート結果をみて、本専攻として、教育上組織的に緊急に改善が必要な点は特に見られないが、「講義の時間管理」については複数の不満が寄せられており（上記詳述）この点は該当する授業の教員に周知徹底する必要がある。

【アンケート回収率】

アンケートの回収率を見ると、全体で 70% であり、前年度の 64% から改善したが、まだ改善の余地があると思われる。但し、更に詳細をみると、本専攻専任教員のアンケート回収率は 85% 程度以上であるのに対し、非常勤講師（学内外）の平均回収率は 60% である。

今後、全体の回収率を上げることに加え、非常勤講師科目の回収率について工夫を行う必要があると考えられる。